



令和4年9月14日
東北運輸局

東北のトラックドライバーは左後輪に注意！！

～ 令和3年度、東北の大型車の車輪脱落事故が再び増加しました～

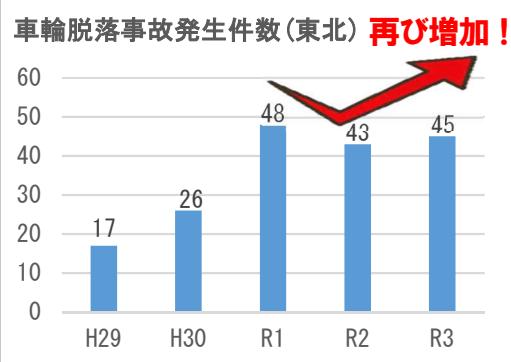
令和3年度に発生した東北運輸局管内の大型車のホイール・ナット緩み等による車輪脱落事故が、再び増加に転じている状況を踏まえ、10月1日から「大型車の車輪脱落事故防止キャンペーン」を実施します。

1. 東北運輸局管内の令和3年度大型車※の車輪脱落事故の発生状況（速報値）

（詳細は「別紙」参照）

- 事故発生件数は45件（前年度比2件増）。
※全て左後輪
- 全体の約71%はトラック事業者によるもの（令和2年度比4件増）。
- それらトラック事業者のうち、約6割で運転者に車輪脱着作業を行わせていた。
- 東北運輸局による運転者へのヒアリング（7月実施）の結果、約56%が「日常点検を省略することがあった」と回答。

※ 大型車：車両総重量8トン以上のトラック又は乗車定員30人以上のバス



出典：自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

2. 大型車の車輪脱落事故防止策

（1）大型車の車輪脱落事故防止キャンペーンの実施

令和3年度の発生状況及び特徴を踏まえ、「トラック事業者の運転者に届くもの」を念頭に、各種取り組みを実施します。

【実施期間】令和4年10月1日～令和5年2月28日

【主な実施項目】

- トラック事業者の運転者を対象とした「車輪脱落事故防止にかかる自己チェック」の実施。
- トラック事業者の運転者を対象とした、「休憩後」「食事後」「荷扱い後」等、運行の途中にもトラックを運転する前に左後輪の状況をチェックする、「走る前、左後輪点検キャンペーン」の実施。
- 大型車のホイール・ナットの取付状況を確認する「街頭点検」の実施。
- トラック事業者の運転者を対象に、車輪脱落事故の恐ろしさを訴えるパンフレットによる日常点検徹底の周知。



令和3年度の街頭点検の様子（山形県山形市）

※今後の詳しい取り組み等は、東北運輸局ホームページ内の車輪脱落事故防止に関する特別ページをご覧ください。

裏面へ続く

(2) 「東北地域事業用大型車の車輪脱落事故防止協議会」の設置及び開催

自動車関係各団体とともに「東北地域事業用大型車の車輪脱落事故防止協議会」を設置し、東北地域事業用自動車安全対策会議と連係して有効な車輪脱落事故防止対策を検討するとともに、各業界から多面的に防止対策を実施します。

【協議会会員】東北トラック協会、東北六県バス協会連合会、自動車整備東北ブロック連絡協議会、一般社団法人日本自動車販売協会連合会「東北ブロック」、一般社団法人日本自動車タイヤ協会関東支部、宮城県タイヤ商工協同組合、東北運輸局

令和4年度第1回協議会は以下のとおり開催予定です。

日時：令和4年9月30日（金）13:30～

場所：公益社団法人宮城県トラック協会 4階大研修室
(宮城県仙台市若林区卸町5丁目8-3)

※会議当日の取材等につきましては、9月28日（水）までに以下の問い合わせ先までご相談ください。



[車輪脱落特別ページ]

〈問い合わせ先〉

東北運輸局自動車技術安全部

整備・保安課 石村、阿部

保安・環境調整官 泉、鹿島

TEL:022-791-7534、FAX:022-299-8872

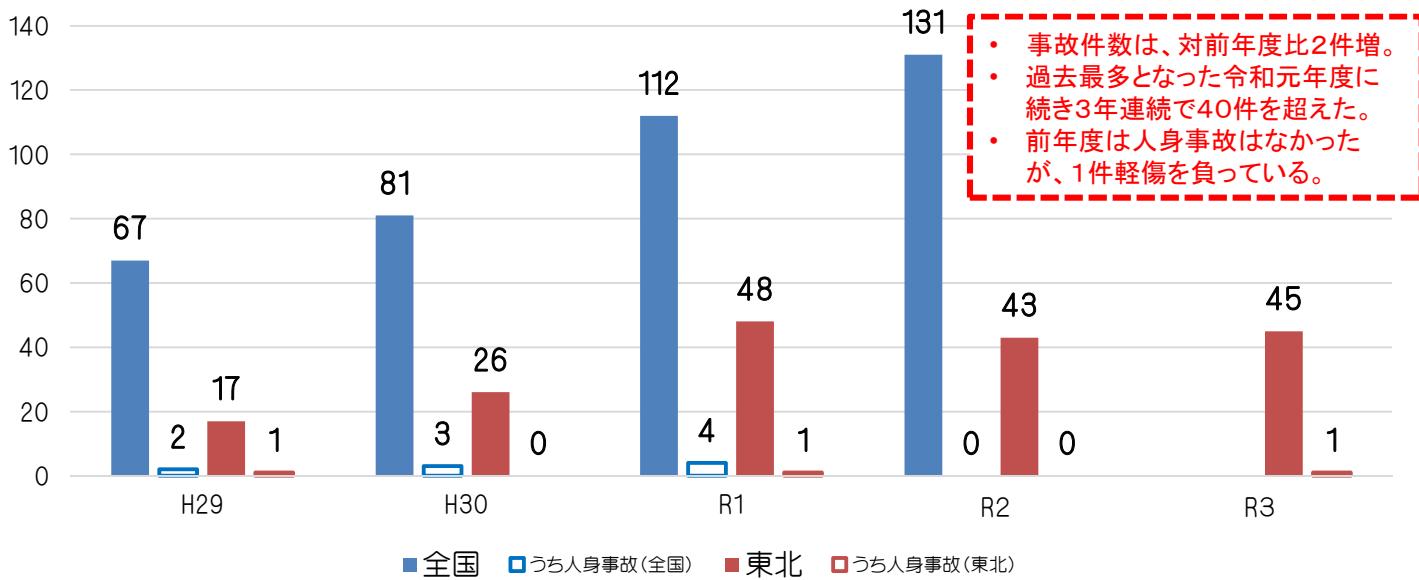
＜添付資料＞

別紙 令和3年度大型車の車輪脱落事故発生状況（速報値）

参考 大型車の車輪脱落事故防止のための啓発チラシ（東北運輸局作成）

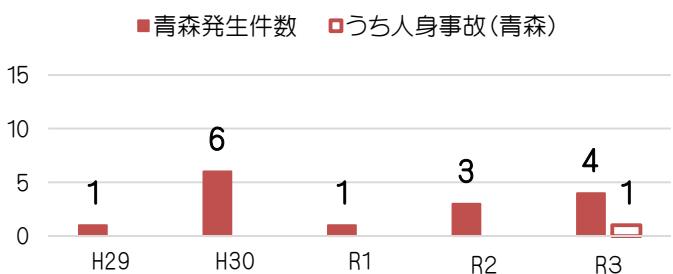
東北運輸局管内車輪脱落事故発生状況（令和3年度）【別紙】

大型車の車輪脱落事故*発生件数の推移

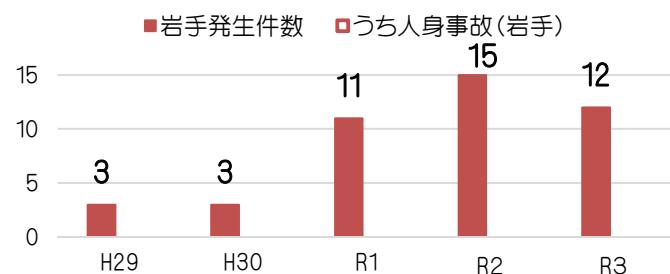


- ・事故件数は、対前年度比2件増。
- ・過去最多となった令和元年度に続き3年連続で40件を超えた。
- ・前年度は人身事故はなかったが、1件軽傷を負っている。

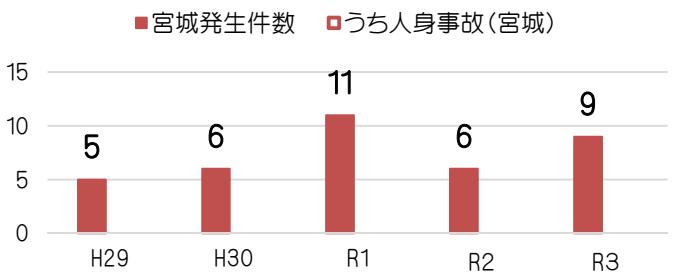
青森



岩手



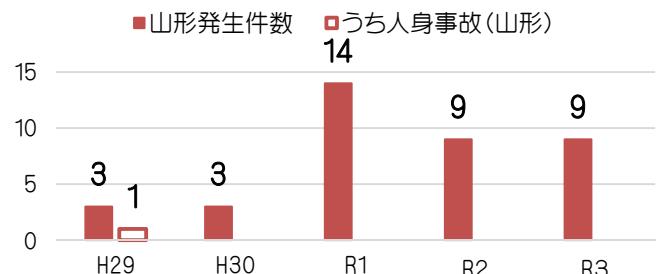
宮城



秋田



山形

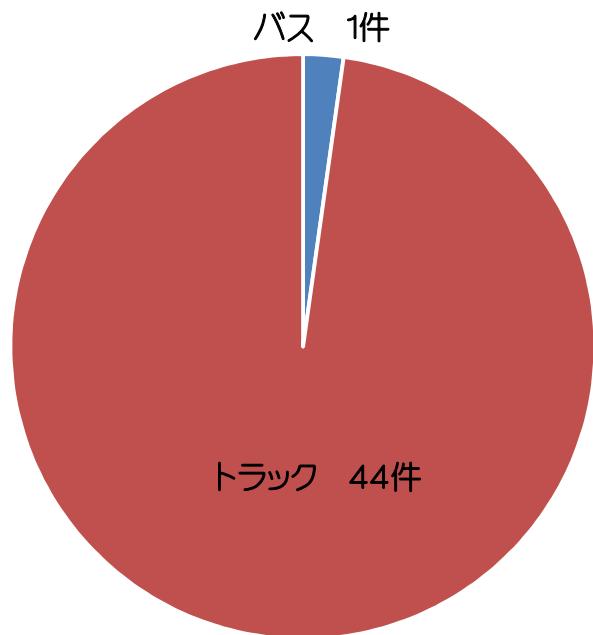


福島

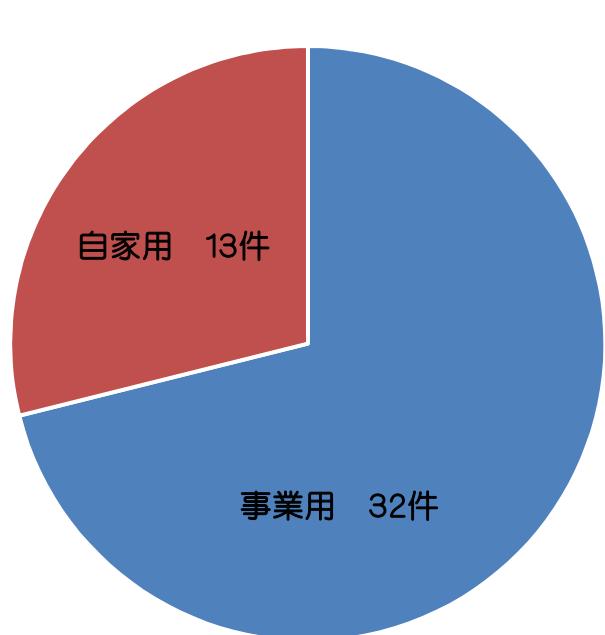


東北運輸局管内車輪脱落事故発生状況（令和3年度）

業態別（大型バス・大型トラック）



事業用・自家用別

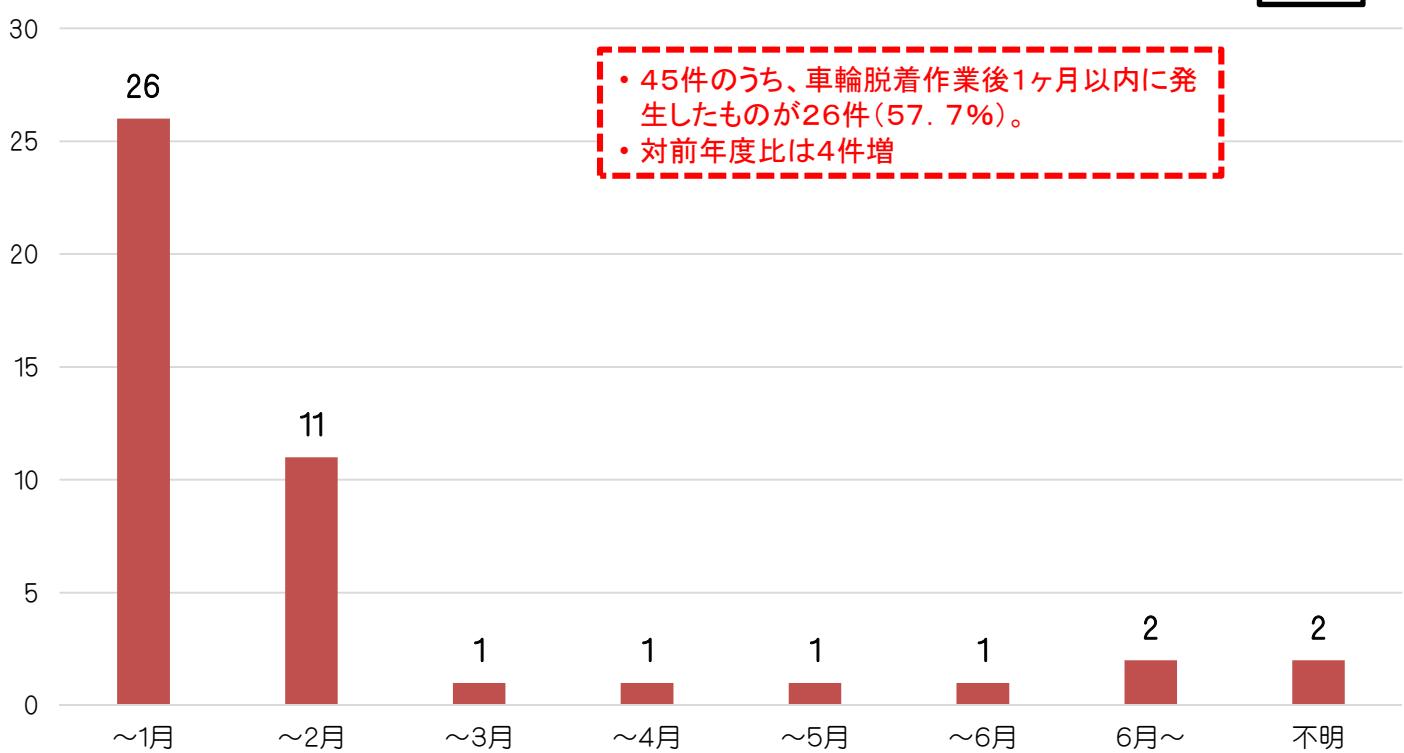


・前年度はトラックのみの発生だったが
令和3年度はバスでも1件発生。

・対前年度比は事業用4件増、自家用3件減、自家用
にはバスの発生もある。

車輪脱着作業から事故発生までの期間別件数

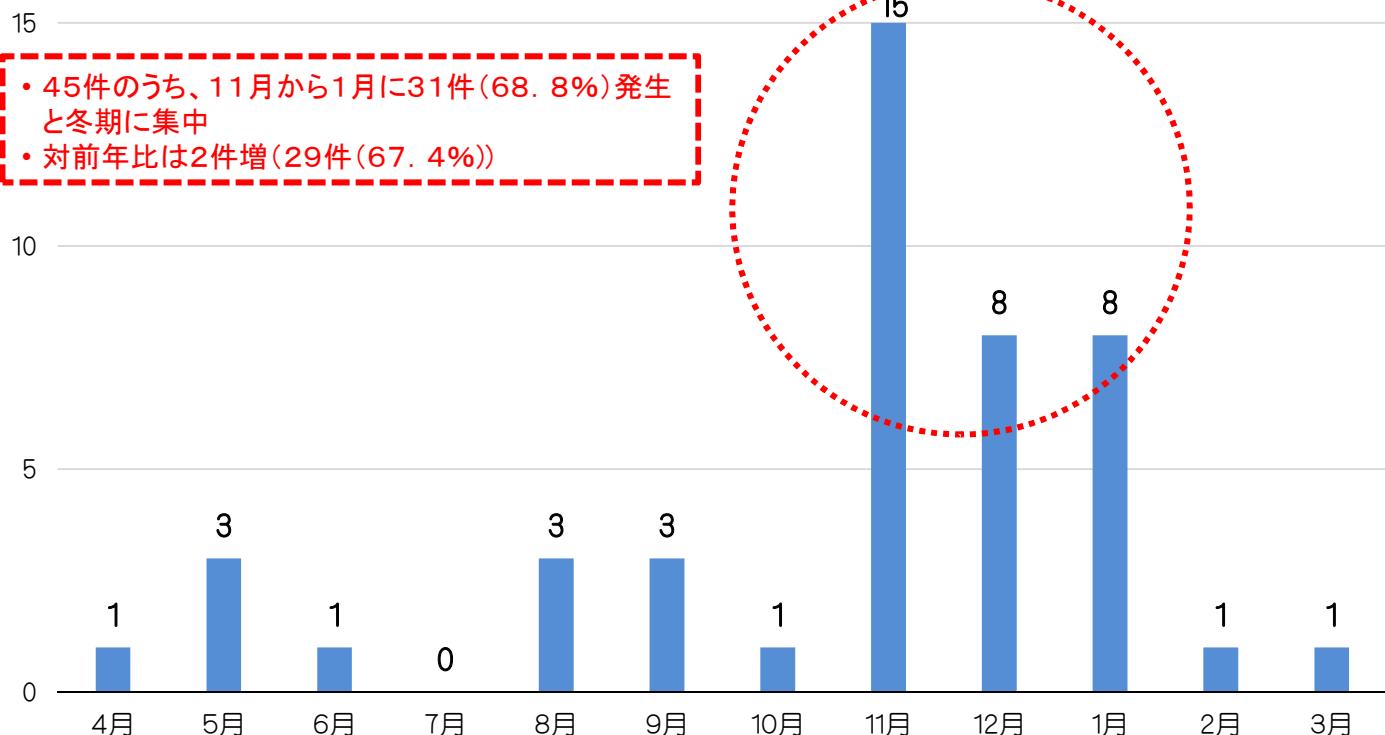
n=45



東北運輸局管内車輪脱落事故発生状況（令和3年度）

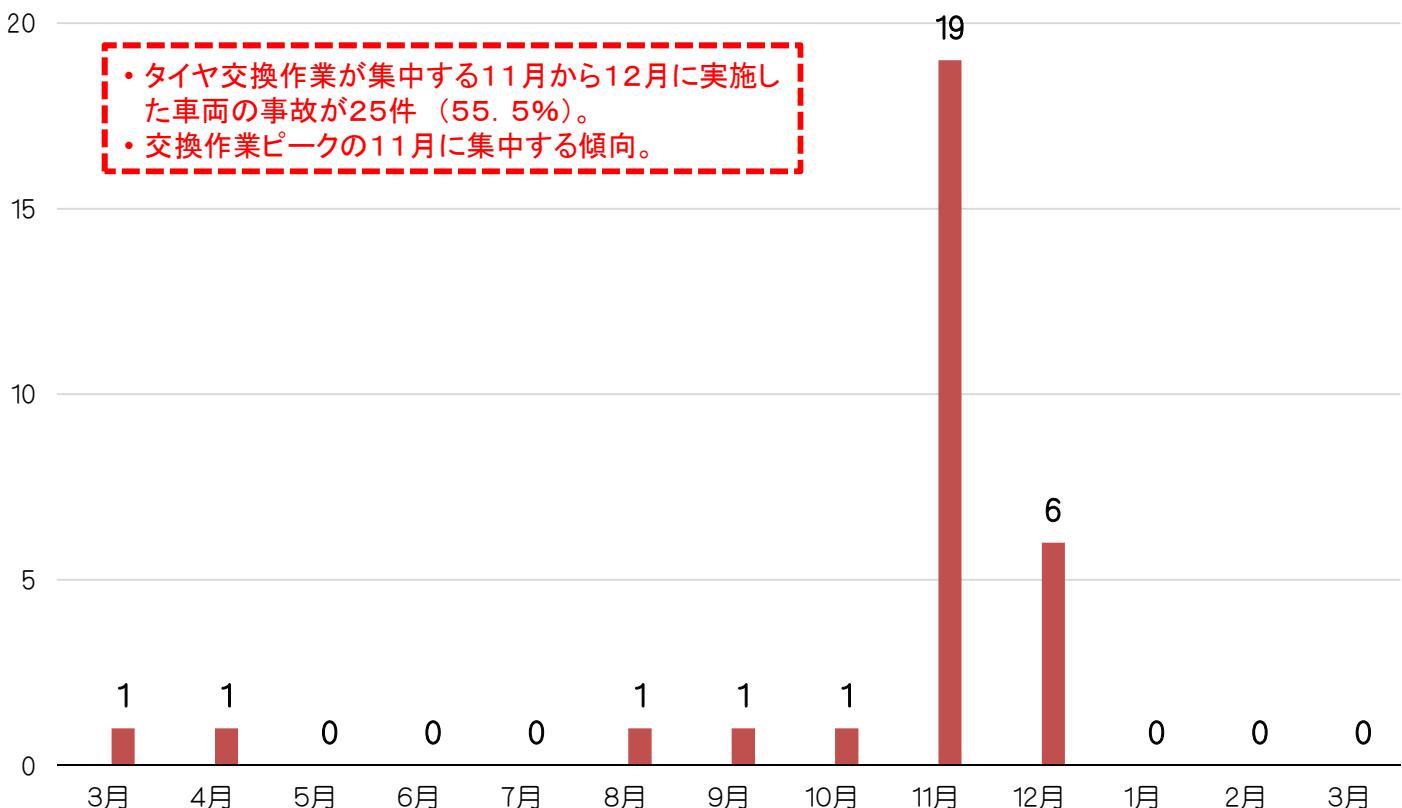
発生月別車輪脱落事故発生状況

n=45

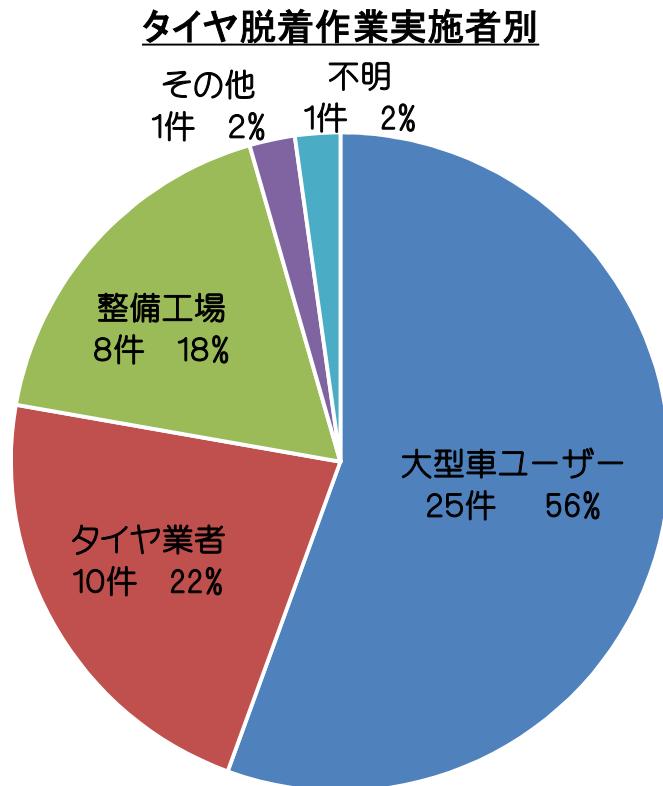


車輪脱落直前の3ヶ月以内に「タイヤ交換」を実施した車両による事故件数 (タイヤ交換実施時期別)

n=30

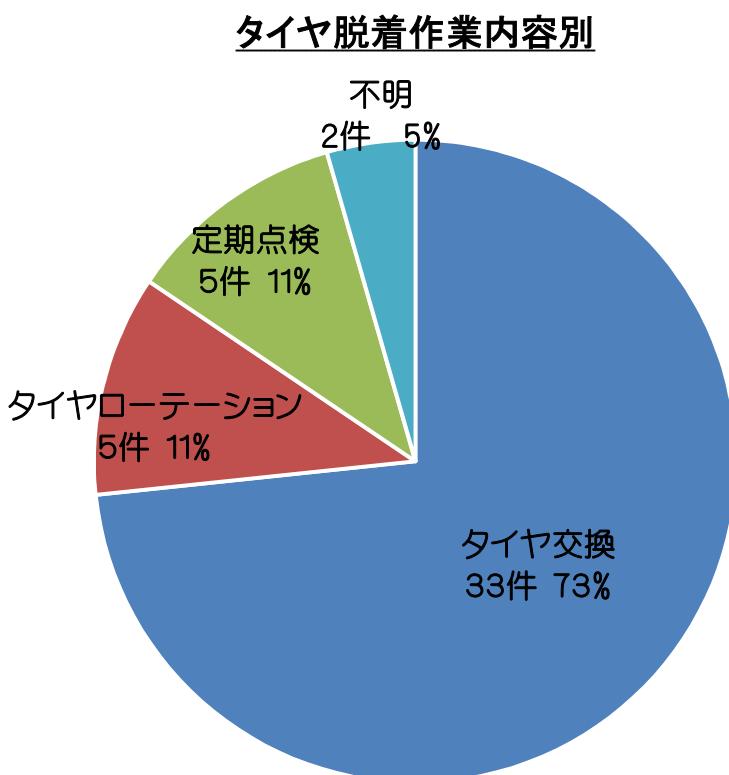


東北運輸局管内車輪脱落事故発生状況（令和3年度）



n=45

・大型ユーザーの交換によるものが半数以上を占める傾向で前年度と同比。



n=45

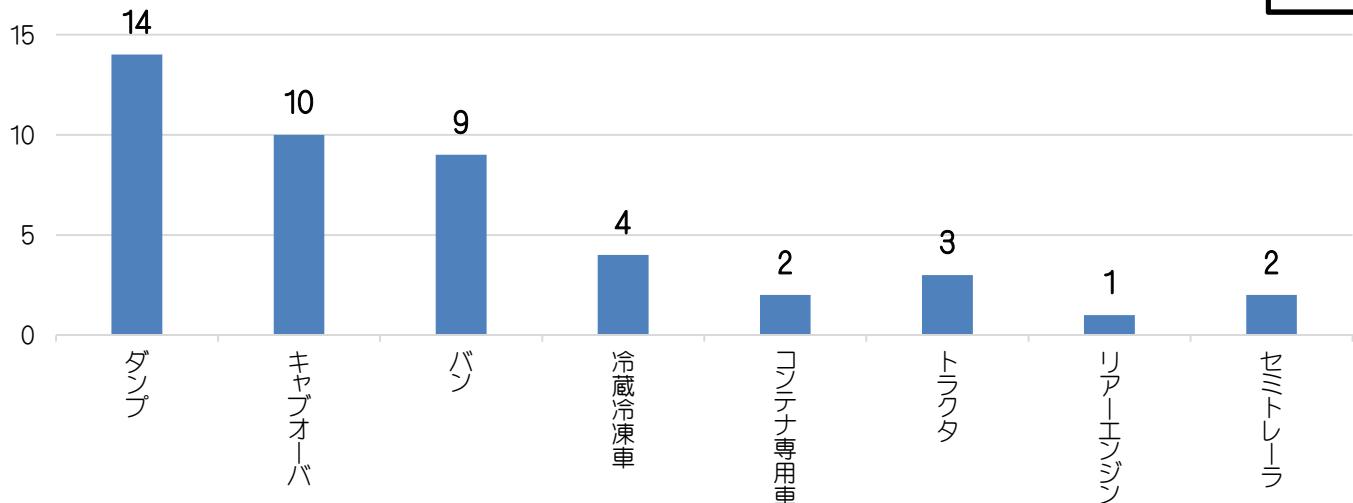
・タイヤ交換・タイヤローテーションが大半を占める傾向。
・タイヤ交換が前年度70%であったことから、増加傾向。

- タイヤ交換
 - ・通常タイヤから冬用タイヤへの交換
 - ・冬用タイヤから通常タイヤへの交換
 - ・パンクや摩耗したタイヤの交換 など
- タイヤローテーション
 - ・タイヤの摩耗が偏ることを防止するため、前後・左右のタイヤを入れ替える

東北運輸局管内車輪脱落事故発生状況（令和3年度）

車体の形状別発生件数

n=45



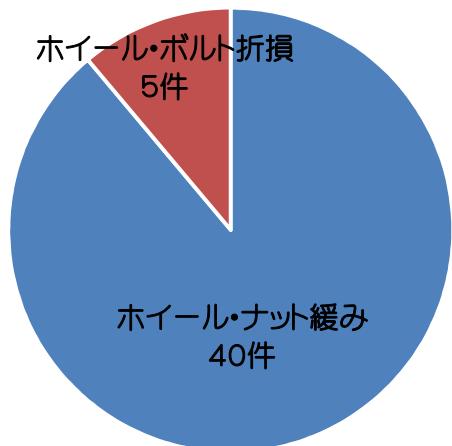
登録年から事故発生までの車齢

n=45



タイヤ脱落時の原因

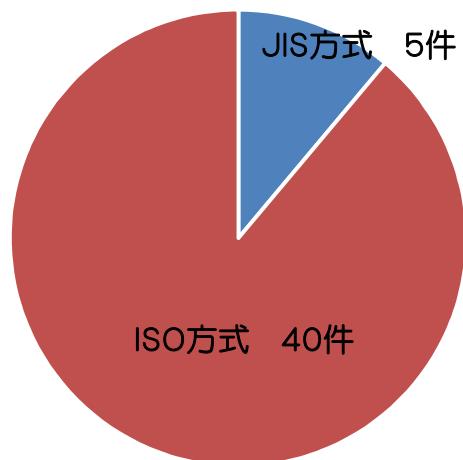
n=45



・ホイール・ナットの緩みによるものが大半を占める傾向。

締め付け方式

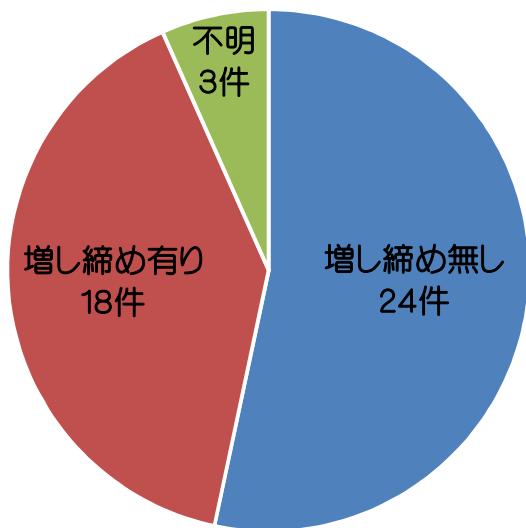
n=45



・締め付け方式はISO方式によるものが大半を占める傾向。

東北運輸局管内車輪脱落事故発生状況（令和3年度）

脱着作業後の増し締め実施の有無



n=45

「増し締め有り」18件について、脱落の推定要因

- ディスクホイール、ホイール・ボルト等の劣化・摩耗: 5件
- ネジ部、ハブ面の錆・汚れ等: 14件

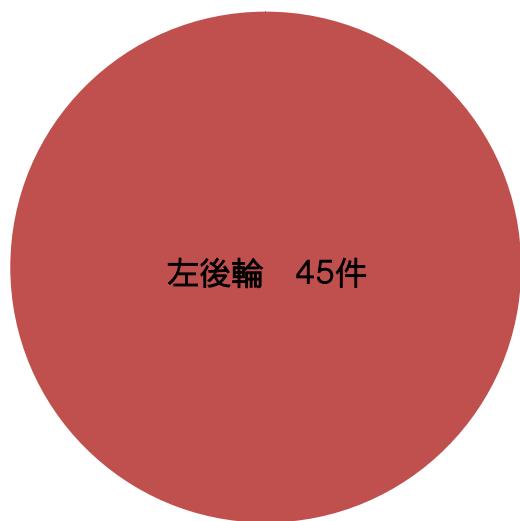
- 「増し締め有り」18件は、大半が大型車ユーザー自ら車輪脱着作業を実施し、自ら増し締めも実施しているが、脱落発生まで1月以内が9件、2ヶ月以内のものが6件となっており、車齢6年以上経過している車両が13件と大半を占めている。
- 経年劣化の影響もあり、ネジ部、ハブ面の錆、汚れ等の除去不十分や潤滑剤の塗布不十分等により、適正な締付力が得られず脱落に至ったと推定。
- 日常において行う点検や確認が不十分であり、緩みに気づくことができず脱落に至ると推定

【対策の方向性】

- ネジ部・ハブ面の錆・汚れ等の清掃作業や適切な潤滑剤の塗布を実施
- 劣化・摩耗が進んだホイール・ボルト、ホイール・ナット等は早めに交換
- マーキング・ナットマーカー等の活用による日常において行う確認の実施（特に左後輪）

脱落車輪箇所

n=45



左輪タイヤの脱落割合が高いことの推定原因

- 左輪タイヤが多く脱落する原因については、以下の可能性が考えられる。
 - 右折時は、比較的高い速度を保ったまま旋回するため、遠心力により積み荷の荷重が左輪に大きく働く。
 - 左折時は、低い速度であるが、左後輪がほとんど回転しない状態で旋回するため、回転方向に対して垂直にタイヤがよじれるように力が働く。
 - 道路は中心部が高く作られている場合が多いことから、車両が左（路肩側）に傾き、左輪により大きな荷重がかかる。
- 前輪は、ホイール・ボルト緩み等の異常が発生した場合には、ハンドルの振動等により運転手が気付きやすい。

・脱落箇所は左後輪で100%

トラックドライバーの皆様へ 大型車の車輪脱落事故 東北地方で多発中！

タイヤが歩行者に衝突するなど重大な事故に
発展するおそれがあります。



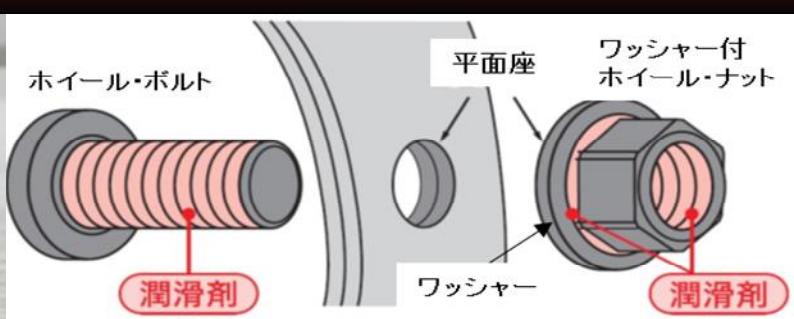
車輪脱落事故の
恐ろしさを知って！！
動画はこちら→



大型車のタイヤ交換等には守っていただくルールがあります。
適切な作業をお願いします！！

- ホイールボルト・ナットの清掃の実施
- ホイールボルト・ナットへの給脂
- 日常点検整備の確実な実施

- 著しく錆びたホイールボルト・ナットの使用禁止
- 規定トルクによるホイールナットの締め付け
- タイヤ交換後、50km～100km走行後の増し締め



車輪脱落事故を起こした車両の
ワッシャー付ホイール・ナット

潤滑剤の塗布箇所
※ナットとワッシャーの間に、潤滑剤を忘れ
ず塗布してください

裏面もご覧ください。▶



国土交通省東北運輸局

日常点検整備の
動画はこちら→



事業者、ドライバー、整備工場の皆さんの協力をお願いします。

「お・ち・な・い」の徹底で 防ごう、大型車の車輪脱落事故

お

とさない!
脱落防止はまず点検。

事前の正しい点検が大きな事故を未然に防ぐ
唯一かつ最善な手段です。



Mr.
整備くん

ちゃんと清掃、
ちゃんと給脂!

ナットとワッシャーとの
隙間への注油も忘れずに!



(ナット)

ナット締め、トルクレンチを必ず使用!

- 適正なトルクレンチを用いて規定のトルクで確実に締め付けます。



- 初期なじみのため、タイヤ交換後50~100km走行後を目安に増し締めを実施してください。



な

ちにち一回、緩みの点検!

- 運行前にボルト、ナットを目で見て手で触って点検。



- 特に脱落が多い左後輪は重点的に点検を。



正しい点検方法を
動画でチェック!



ホイールナットの緩みが一目でわかり、
高精度な点検が誰でも手軽にできる
「連結式ナット回転指示インジケーター」の
使用方法も動画でご確認いただけます。



詳しくは、
こちらから!



国土交通省 自動車点検整備推進協議会 大型車の車輪脱落事故防止対策に係る調査・分析検討会 日本自動車工業会(いすゞ自動車、日野自動車、三菱ふそうトラック・バス、UDトラックス) 全日本トラック協会 日本バス協会 全国自家用自動車協会 日本自動車整備振興会連合会 日本自動車販売協会連合会 全国タイヤ商工協同組合連合会 日本自動車タイヤ協会 全国石油商業組合連合会 日本自動車車体工業会 日本自動車輸入組合 日本自動車機械工具協会 日本自動車機械器具工業会 自動車用品小売業協会 日本自動車車体整備協同組合連合会

